

調査の内容

現地調査

調査項目	内容	方法	現地調査時期(回数)	
周辺土地利用状況	候補地周辺の土地利用状況を調査(住宅、学校、農地等)	航空写真・現地踏査等により、周辺土地利用状況を把握する。	1回	
交通量調査	歩行者・二輪車・四輪車の通行量を、廃棄物の搬入ルート上の地点で調査(12h)	候補地ごとに想定した搬入経路について、道路幅員・歩道整備状況・沿道土地利用状況を調査し、整理するとともに、交通量を実測(十二時間)し把握する。	1季(1回)	
風向・風速調査	風向風速調査を実施し、粉塵による影響の程度を把握	現地で実測(1候補地のみ)候補地から住宅までの距離が比較的近い候補地について、近傍の公共施設に風向風速計を設置し、調査を行い、粉じんによる影響の程度を把握する。	4季(4回)	
地形地質地下水状況調査	候補地内の地形・地質・水の流れ・湧水の状況を調査	現地踏査 地表に現れている地層などの状況を把握するとともに、地表水の流量や湧水箇所、湧水量等についても確認する。 ボーリング調査 貯留堰堤中央付近とそれ以外の箇所の計2箇所実施する。	1回 (水は4回)	
降水量調査	候補地周辺の年間を通じての降水量を調査	周辺の雨量観測所データ等か降水量を把握する。 (気象庁・県のデータ)	年中	
河川	流況調査	放流水を放流する河川(水路)の流況(流量・流速・流達時間)を調査	現地で実測 文献(流域、支川等)	4季
	水質調査	放流水を放流する河川(水路)の水質を調査	現地で実測(サンプリング) 文献(環境白書等)	4季 (季節変動)
	利水調査	放流水を放流する河川(水路)の利水状況(飲料用、農業用等)を調査	現地踏査 文献(地図等)	1回
動植物	陸生動物調査	候補地内及び周辺地域の貴重種の存在や種の多様性の状況を調査	現地踏査 文献	哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類1季(1回)(初夏) 猛禽類繁殖期(1回)(2月)
	陸生植物調査	候補地内及び周辺地域の貴重種の存在や種の多様性の状況を調査	現地踏査 文献	1季(1回) (夏季)
	海生動物調査	候補地内及び周辺地域の貴重種の存在や種の多様性の状況を調査	現地調査 文献	1回
	海生植物調査	候補地内及び周辺地域の貴重種の存在や種の多様性の状況を調査	現地調査 文献	1回

環境影響調査

施設稼働時の埋立作業、施設の稼働による影響	
大気(粉塵含む)	住宅、学校等の位置から影響の程度を評価
騒音・振動	
施設稼働時の搬入車両等による影響	
大気	車両走行ルートを想定し、周辺住宅、学校等への影響を評価
騒音・震動	
施設稼働時の処理水による下流への影響	
水質	排水基準の排水量を放流した場合の下流への影響を評価
建設工事による影響	
水質(濁水)	工事における濁水による影響を評価
大気(粉塵)	住宅、学校等の位置から影響の程度を評価
騒音・振動	
建設工事、施設の存在による影響	
動植物	工事に伴う土地の改変等によって、貴重な動植物の生息環境に影響があるかを評価(開発地内の動植物への影響)

現地調査結果・文献情報とそれに基づく環境影響調査結果を基に環境保全対策を検討

現地調査結果や文献情報等を基に防災対策を検討

整備基本構想

環境保全対策

(共通項目：環境影響調査項目)
施設稼働時の埋立作用による影響対策
施設稼働時の搬入車両による影響対策
施設稼働時の処理水による下流への影響対策

(候補地毎)
秋津川 飲料水・農業用水対策
稲成町 農業用水・粉塵対策
高富 海生動植物対策(珊瑚)

反映

施設配置概略計画

最終処分場の施設配置
・埋立地
・貯留構想物
・遮水工
・水処理施設
・搬入管理施設
・管理棟
搬入道路など

ライフサイクルコスト

施設の建設、稼働から閉鎖に至るトータルコスト

反映

防災対策

(防災対策)
大雨時の斜面崩壊の防止
地盤沈下の防止
浸出水漏水防止対策
地下水による影響の軽減